

◆【全国発信記事】九州関門地方支部

新造船うみてらし就航 — 九州郵船株式会社 — 博多港～対馬・比田勝港を結ぶ

6 月 29 日、福岡市の博多埠頭フェリー岸壁で、九州郵船株式会社の新造船「うみてらし」の内覧会が開催され、博多港～対馬の比田勝港を結ぶ航路に就航した。

本船の特徴は、従来船と比較して、揺れや騒音を緩和する設計を取り入れた点にある。多目的サロンやプライバシーに配慮した小部屋など、静かにくつろげる空間を提供し、エレベーターやトイレなどバリアフリー設備も充実させた。また、船体を大型化したことで海上の揺れにも強くなり、欠航率の低下も期待できる。船内は木目調をベースにリラックスできる空間を演出し、乗船客が博多～対馬の船旅を十分に満喫できるよう配慮している。

「うみてらし」の内覧会

新造船「うみてらし」の内覧会は、福岡市の博多埠頭フェリー岸壁で開催された。コバルトブルーの海面に映える緑色のファンネルカラーの「うみてらし」が入港し、フェリー岸壁への着桟作業に入ると、新造船の到着を待っていた関係者たちは歓声を上げた。

地元の放送局 K B C ラジオの生中継がスタートすると、九州郵船株式会社の広報担当者がインタビューに応じ、博多港～対馬市比田勝港間を約 5 時間で結び、1 日 1 往復する新造船「うみてらし」の特徴をわかりやすく説明。そして生中継が終了するタイミングで「うみてらし」は汽笛を鳴らし着岸した。

「うみてらし」の内覧会は新型コロナウイルス感染症対策を講じたなかで行われた。木目を基調とした木の香りが漂う船内では、各部署を担当する乗組員が見学者に丁寧に説明。

「うみてらし」という船名は公募で決められたもので、安全な航海を願う意味が込められており、今後の活躍が期待されている。

※「うみてらし」= ヒトツバタゴの別名。対馬北部の鰐浦(わにうら)地区は国内最大の自生地。開花期は5月初旬、一斉に白い花を咲かせる。波の穏やかな日には、山を白く彩るヒトツバタゴの花の影が海面を白く染めることから「海照らし」と呼ばれている。昭和3年に国の天然記念物に指定された。

うみてらし（要目）

▼総 ト ン 数 = 1 1 2 5 トン

▼航 海 速 力 = 17 ノット

▼搭 載 人 員 = 1 7 6 人

▼搭載・乗用車 = 43 台

「海員だより」